OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	巻頭の辞
Author(s)	大久保, 邦彦
Citation	国際公共政策研究. 2016, 21(1)
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/57775
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

巻　頭　の　辞

『国際公共政策研究』は、本号（第 21 巻第 1 号）より、これまでの寄稿論文（査読なし）、投稿論文（査読あり）並立制を廃止して、原則としてすべての提出論文に査読プロセスを設ける査読誌に変わりました。同時に、従来の紙媒体による発刊を取りやめ、すべての論文を電子版でのみ公表することになりました。制度変更後の最初の刊行となる本号には、査読プロセスを経て受諾された論文 2 編を掲載しています。

また、本号では特集として、野村美明先生のご退職を記念し、国際公共政策研究科関係者より先生の長年の貢献やご指導に対する心からの感謝と惜別の思いを込めて、野村美明教授退職記念論文集を刊行する運びとなりました。

野村先生は、昭和 51（1976）年 3 月に大阪大学法学部を卒業され、昭和 54（1979）年 3 月に大阪大学大学院法学研究科前期課程を修了、昭和 56（1981）年 5 月に大阪大学法学部助手に採用されるのを機に、博士後期課程を退学されました。そして、昭和 59（1984）年 11 月に法学部助教授に、平成 6（1994）年 4 月には法学部教授に昇任されました。またその間、ハーバード・ロースクールに留学し、昭和 61（1986）年 6 月に LL.M を取得されました。その後、OSIPP の創設に尽力し、平成 6（1994）年 6 月に大阪大学大学院国際公共政策研究科に移られました。OSIPP は”Osaka School of International Public Policy"の略ですが、他の研究科のように”Graduate School”とされていないのは、大阪大学から離れても存続できる組織にしようという野村先生ら OSIPP 創設者の決意が込められています。そして、平成 14（2002）年 4 月から平成 16（2004）年 3 月まで、国際公共政策研究科長を務められました。その任期中には、産学官の共同研究を推進するリテールファイナンシャルサービス（RFS）研究会の発足、学生による授業評価アンケートの充実、国立大学法人化の完成など、OSIPP の発展に多大なる貢献をされました。平成 16（2004）年 4 月からは、法科大学院の創設に伴い、大阪大学大学院高等司法研究科教授を併任されました。また、平成 20（2008）年 4 月からは、大学本部で広報・社学連携室の室員を務められました。そして、平成 28（2016）年 3 月 31 日をもって定年でのご退職となりました。

野村先生のご専門は、国際私法・国際取引法ですが、最初に取り組まれたのはアメリカにおける裁判管轄権の問題でした。その後、先生は、国際金融取引の研究に取り組まれ、グローバル化に伴って進化する金融取引の実務とそれに対応する法制度や規制の限界に着目しながら、電子商取引やローン契約に関する数多くの業績をあげられました。平成 21（2009）年から平成 26（2014）年まで国際関係法（私法系）の司法試験考査委員を務められたことからも、野村先生がこの分野の第一人者であることが窺えます。

野村先生はまた、教育にも非常に力を入れられました。教育者としてのミッションは主体的に動ける人間を育てることにあるとの信念から、ネゴシエーションやリーダーシップという新たな研究分野を開拓されました。野村先生に私が初めてお目にかかったのも、平成 6（1994）年 12 月に大阪 YMCA で開催された交渉学に関する会合です。野村先生はツイートでも、「リーダーシップを教えている日本でただ 1 人の法学者です」と自己紹介されています。野村先生はその後、平成 13（2001）年 10 月に交渉教育研究会を発足させ、平成 16（2004）年 10 月に交渉教育支援センターを OSIPP に設置され

ました。その成果は、『交渉ケースブック』や『交渉教育の未来－良い話し合いを創る 子供が変わる』などのご著書のほか、グローバル・リーダーシップ・プログラムや大学対抗交渉コンペティションに結実しています。それに伴った数多くの関連の講義や演習を学部や大学院で開講し、その中で、交友関係の広さを活かして学外講演者として多くの経営者や事業者を招待し、学生が直接にリーダーと交流できる教育機会の実現に努められました。桂文枝師匠の講義が実現したのも、野村先生の人脈によるものです。平成 25（2013）年度から平成 27（2015）年度まで「交渉教育のための要素理論の研究－よりよき実践に向けて」というテーマで科学研究費基盤研究(A)の研究代表者を務められ、この実績が認められた結果、平成 26（2014）年 7 月には大阪大学総長顕彰を受賞されました。また、多くの研究者を輩出されており、OSIPP の内記香子准教授は、愛弟子の 1 人です。

野村先生は、研究室ではいつも、欧米並みに、研究員や数人の秘書を従えて仕事をされていました。研究室の壁には、歴代ゼミの学生の写真や秘書さんの子どもの写真が貼られており、学生や秘書さんのことを大切にされているのがわかりました。

学外活動に関しては、法制審議会間接保有証券準拠法部会臨時委員、法制審議会商法（運送・海商関係）部会臨時委員、司法試験考査委員、日本学術振興会科学研究費委員会専門委員、仲裁 ADR 法学会理事、国際法学会理事・監事、国際経済法学会理事・監事、国際私法学会理事、「国際私法年報」編集代表、Japanese Yearbook of International Law（International Law Association, Japan Branch 国際法協会日本支部年鑑）編集委員、国際法協会・国際私法・手続法におけるプライバシー保護委員会（ILA International Committee on Protection of Privacy in Private International and Procedural Law）委員、NPO 法人グローバルリーダーシップアソシエーション理事長等を務められました。

OSIPP の顔と言ってもよい野村先生が定年退職されて淋しくなると思っていましたが、縁あって、先生は今も特任教授として OSIPP と大阪大学のためにご尽力されています。先生が、ますますお元気でその力を発揮され、ご活躍されることを祈念するとともに、今後とも、国際公共政策研究科の後進のご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成 28 年 9 月

大阪大学国際公共政策学会長
大久保　邦彦